

令和4年度 第1回 有田工業高等学校 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）会議録

「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条に基づき、会議は公開（プレスリリースで案内）で行いました。また、「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第1回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の会議録等を公表します。

【期 日】 令和4年6月21日（火） 15:00～17:00

【場 所】 佐賀県立有田工業高等学校 会議室

【出席者】 学校運営協議会委員 13名（欠席者1名）

本校事務局教職員 12名（欠席者1名）

傍聴者 佐賀県教育庁教育振興課 2名

【会議の内容】 以下のとおり。（全体の進行は主幹教諭）

- ・開会にあたり、本協議会は資料P⑦の規則第8条に基づき、公開とすることを確認した。
- ・議事録作成のため、事務局で記録や写真等をとらせていただくことの下承を得た。
- ・資料P④の規約第7条に基づき、議事録の作成は事務局が作成し、会長をはじめとした委員の確認を得て保存することを伝えた。

1 開 会

2 任命状交付

委員の推薦については、資料P⑥の「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第3条の規定に基づき、学校所在地の地域の住民、生徒の保護者、学校の運営に資する活動を行う者などを含めて選出し、県教育委員会が任命するものとなっている。

学校長より委員の方に任命状を手交した。

3 学校長挨拶

佐賀県は、「SAGA唯一無二の学校魅力化実践事業」として、「SAGA コラボレーション・スクール(SCS)」と銘打ったコミュニティ・スクールに県立高校9校を指定し、そのうち、本校全日制を含む4校が重点校となっている。そのため、学校運営協議会（学校魅力強化委員会）を設置することとなった。コミュニティ・スクールは、佐賀県でもこれまで義務制の学校での導入はあったが、県立にも本格的に導入することになった。本日の学校運営協議会は、初回ということもあり、委員の皆様からは数多くの疑問等も出てくるかと思うが、忌憚のない御意見をいただきたい。限られた時間ではあるが有意義な会になればと思っている。

4 委員および本校事務局教職員の紹介

出席者（委員13名、本校事務局教職員12名）より、各1分程度で自己紹介を行った。

また、教育振興課の2名にも自己紹介をいただいた。

5 学校運営協議会設置についての説明 (SCS 担当・主幹教諭より説明)

資料の P.3～5に基づいて説明。

・学校評議員制度と学校運営協議会の違いについて説明 (P.3)

学校運営協議会は、保護者や地域の方々が一定の権限をもって、学校運営に参画することにより、「目標やビジョン」を共有して、社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的としている。

・コミュニティ・スクールのメリットについて (P.4)

子供にとっての魅力、教職員にとっての魅力、保護者にとっての魅力、地域の人々にとっての魅力について説明を行った。お互いに意見交換をすることで、学校運営に反映させた学校づくりが可能となる。

・本校におけるコミュニティ・スクール(学校運営協議会)について (P.5)

高等学校の特性をふまえ、エリアコミュニティというよりも、テーマコミュニティの考え方を取り入れたコミュニティ・スクールとして、学校の魅力化や特色づくりに資する。学校運営協議会は主に3つの機能「校長が作成する学校運営の基本方針の承認をすること」「学校運営について、教育委員会や校長に意見を述べるができること」「教職員の任用について、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができること」を有しているが、地教行法の改正(H29)によって新たに加わった機能「学校運営に必要な支援に関する協議」も大切な視点としていきたい。

・本校は全日制・定時制課程があるため、学校運営協議会については全日制・定時制合同で開催する。また、SCS 重点校の指定を受けた全日制については、学校魅力強化委員会を設置することになっているため、この学校運営協議会の会議のなかで全日制的協議を行い、学校魅力強化委員会として運用していく。

6 会長および副会長選出

「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第6条第1項により「協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める」となっている。

会長は中村様、副会長は竹田様と土井様が選出された。

7 会長挨拶

会長から、規則「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第7条第2項「協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない」、第3項「協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる」の説明があり、本日の会議は成立することの確認がなされる。

8 議事 (進行は会長に交代)

(1) 令和4年度 学校運営の基本方針(案)について (校長より説明)

配布資料の P.6～7(学校要覧 P.7～8)に基づいて、長期経営計画(校訓、学校教育目標、現状と課題)について説明を行った。

本校は工業高校として県内では佐賀工業高校に次いで、2番目に歴史のある高校であること、県内唯一、全国でも数が少ないセラミック科・デザイン科については、「地域みらい留学」として昨年度か

ら全国募集を行っていること、セラミック科の定員割れの状態について志願者増につなげ、地元、国内外で活躍する人材を育てたいこと、有田町内唯一の高校として、地域に密着した地域に愛される学校を目指していきたいことなどの説明を行った。

学校評価計画については、資料 P.8（全日制）、P.12（定時制）に基づき、本年度の重点目標や重点取組について説明を行った。

本校の近況報告として、昨年度3月の野球部選抜大会出場、ものづくりコンテスト県大会（6月開催）旋盤作業部門で最優秀賞を受賞し九州大会への出場が決定、漫画研究部が高知県で開催される「まんが甲子園全国大会」に出場、放送部が東京都で開催される放送コンテストに出場することなど、生徒の活躍を紹介した。また、セラミック科の取り組みとして、7月にモラージュ佐賀で、8月に博多阪急でセラミック科展を開催することも紹介した。

有田工業高校のホームページでは、毎日更新のトピックスを掲載していること、学校だより「勉脩」を月1回発行し、保護者や地域の回覧板等を利用して情報発信に努めていることなどを紹介した。

【質疑応答】

(委員1) 学校要覧にこの内容が記載されて、実際に動いているのか？

(校長) 本年度は始まっているので、実際このように動いている。途中で変更したほうが良いということがあったら、柔軟に対応していきたい。

(委員1) 長期経営計画の期間は、何年くらいの期間で考えているのか？

(校長) 校長の在籍期間にもよるが、代々校長が変わったとしても、この学校運営協議会で決定された長期経営計画が生き続けていくものだと思っている。

(委員2) 長期経営計画、学校運営計画については、生徒が学校を選ぶときに参考にするのか、保護者が参考にするのか、どこに向けて発信をされているのか？生徒が読むには、難しい内容ではないかと感じたのでお尋ねする。

(校長) 長期経営計画、学校運営計画については、あまり表に出ることはないと思う。

校長をはじめ、教職員の共通認識となるひとつの指針という形であり、学校要覧に記載している。県でも、この学校はこのように活動していくということを、このことによって把握している。実際に生徒や保護者が目にすることは少ないが、学校評価計画についてはホームページで公表し、PTA 総会資料でも配布している。P.9の3つの方針（スクール・ポリシー）については、保護者や受検を考えている生徒に示すような内容になっているので、重なる部分もあるものが長期経営計画、学校運営計画とさせていただきたい。

(会長) 他に意見はないか？

ないようであれば、基本方針について、承認いただける方は拍手をお願いします。

(全員、拍手)

以上、基本方針については、全会一致で、承認された。

(2) 令和4年度 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）年間計画（案）および

SAGA コラボレーション・スクール事業計画の概要について（SCS 担当・主幹教諭より説明）

・令和4年度の学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の年間計画について（資料 P.13）

本校は重点校のため、年間6回の開催を求められている。本年度はコミュニティ・スクール導入

初年度であり、規約の作成や委員の推薦等、4月から設置準備を行ったため、第1回協議会の開催が6月になったが、次年度は第1回を5月に開催できるようにする。学校運営協議会が設置されたことの周知を図るために「ARIKO コミュニティ・スクール通信」を発行し、保護者や地域の回覧板等を利用して情報発信していく。

・SAGA コラボレーション・スクール事業について（資料P.14）

SAGA 唯一無二の学校魅力化実践事業として、本事業の目的及び目標について説明を行った。また、本校におけるテーマを「有田の伝統産業や大学と協働したデザイン、セラミック等の専門的・実践的な人材育成と全国募集の促進」とし、有田工業高校の特色を生かしながら魅力を高めて、それを情報発信していくことで志願者増につなげていくといった方向性で取り組んでいく。

・令和4年度版有田工業高校学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の仕組みを生かした連携・協働のイメージ【概要】暫定版について（資料P.15）

地域社会と連携・協働した学校運営について、暫定版で作成した図に基づいて、本校における学校運営協議会の位置付けおよび今後の活動のイメージについて説明した。委員の皆様は、様々な活動の結節点（つなぎ目）になっていただくことで、これまでの取組をブラッシュアップしたり、新たな活動を生み出したりすることができればと考える。また、地域みらい留学により、県外から人が入ってくることによって、新たな人の流れをつくって地域の活性化に貢献につながっていくよう取り組みたい。

【質疑応答】

（委員3） 資料 P.14 の「有田町内唯一の」という表現について、有田町内には有田工業高校しかないの、ここは佐賀県内唯一なのか、九州唯一なのか全国唯一なのか、そういった表現の方が相応しいのではないのか。修正が可能であれば、吟味していただければと思う。

（主幹教諭） 有田町内で1つの高校ということで唯一の高校というように表記したが、有田町内で唯一の高校をめざすわけではない。ご指摘のとおり、誤解を生じるような表現になっているので、表記の仕方を検討したいと思う。

（会 長） ほかに意見はないか。

資料 P.15 について、イメージとしてはきちんと作成されていると感じた。委員としてこれだけのステークホルダーが1つの高校を取り囲んでいるというのは、実質的にすでに動いているというようで、改めてすばらしいと思う。

（委員4） 有田工業高校には、セラミック科・デザイン科のほかに、機械科、電気科もあると思うが、SAGA コラボレーション・スクールについては、セラミック科・デザイン科のみが対象なのか？

（主幹教諭） 学校として全日制が SAGA コラボレーション・スクールの指定を受けたので、4学科すべてということになる。セラミック科とデザイン科が「地域みらい留学」全国募集もしているので、2学科が中心となる部分も多いが、ものづくりとかそういった形での人材育成や地域振興への貢献などは機械科・電気科が関わってくるかと思う。「地域みらい留学」で県外からの新たな人の流れをつくることで地域の活性化にもつながると思う。地域との関わり方や連携の在り方が、地域貢献であったり、地域への人材輩出であったり、地域の外部講師を招いて専門性を高めたりといったように、学科によって連携の仕方が様々であり異なってくるが、セラミック科やデザイン科を中心としながら4学科含めて、学校として全

体で取り組んでいきたい。

(委員3) その件について、資料 P.15 に、連携・協働のイメージの概要図が示されているので特段問題ないかと思う。

(主幹教諭) 補足になるが、各学科の取組となると、専門教科の先生だけが取り組めばいいのかということになるので、普通科の先生も含めて学校行事でも連携・協働を図ったり、例えば進路指導の面接指導を教員だけでなく、PTAの方などと連携したりして、そういうところも含めながら今後検討していきたいと思う。

(会長) 他に意見はないか？

ないようであれば、学校運営協議会(学校魅力強化委員会)年間計画(案)、および「SAGA コラボレーション・スクール」事業における計画について、承認いただける方は拍手をお願いします。

(全員、拍手)

以上、学校運営協議会(学校魅力強化委員会)年間計画(案)およびSAGA コラボレーション・スクール事業における計画案については、全会一致で承認された。

※ (進行交代、司会進行は主幹教諭)

9 報告事項 令和4年度 教育課程および年間学校行事について (主幹教諭より説明)

本来ならば承認を得るところであるが、コミュニティ・スクール導入初年度であり、第1回協議会を6月に開催したため、本年度の教育課程及び年間学校行事については報告事項として紹介し、承認をいただいた。

別冊「令和4年度学校要覧」(全日制 P.9~14、P.34~35・定時制 P.59~64、P.75~76)の紙面により、全日制・定時制の令和4年度の教育課程および年間学校行事計画を紹介した。

10 ラウンドテーブル形式によるグループ協議(約30分) (全体の進行は主幹教諭)

グループ協議については、SAGA コラボレーション・スクール指定(全日制)の「学校魅力強化委員会」として進めることとする。

○ 協議内容について

スクールミッション・ポリシー(全日制)(資料P.9)をベースにして、スクールミッション・ポリシーが学校にとっても地域にとってもよりよいものにするために、有田の地元の高校生にどういう力をつけてほしいか、そのためにはどのように連携していったらよいか、どのような取組が考えられるかなど、当事者としてどのように学校運営にかかわっていくという視点で具体的にどういう支援ができるかということについてアイデアを出しながら協議するとともに、委員同士が交流する場とした。

○ グループ編成について

参加者(委員および教職員)を3つのグループ(校訓より、グループ名は「愛し」「創り」「光れ」とする)に分け、各グループ4~5人で構成。各グループのテーブルファシリテーターを3名の委員(中村様・佐々木様・徳永様)に依頼した。各班に、広用紙や付箋・色ペン等を準備し、KJ法を用いて進めた。3つのグループに分かれて30分程度協議をした後、各グループの報告をテーブルファシ

リテーターの3名の委員の方から、「愛し」→「光れ」→「創り」の順に発表していただいた。

○ 各グループの報告

①「愛し」グループ

愛しグループでは、協議した内容を「知る」「知らせる」「つなげる」「興す（おこす）」という4つのキーワードにグルーピングした。「知る」というのは、有工生にもっと郷土愛を育んでもらいたいということ。また、知るだけではなく「知らせる」ということも必要。情報発信をもっと強化していく、ネット上に有工ショップを立ち上げていくなど。また「つなぐ」というのは、同窓生が相当数いるので、有工人材バンクなどのネットワークを作ったらどうかという意見。また、学科でコラボレーションして作品作りをしたらどうかという意見も出た。今後、「地域みらい留学」が広がったときに同窓会をするなど。また、専門的な知識を持っている先生たちが工業高校はたくさんいるので、そういった先生との関わりをもっと強く持てれば良いという意見が出た。最後に「興す」ということ。イベントだけではなく、生きた授業を生で感じるができるという強みがある。ものづくり講習の開催や、生徒による地域イベントを子どもたちが実践するというのはどうか。どうしても各科で単独でまとまりやすいので、生徒会や課外活動のなかで、例えば卒業式などでクリエイティブな活動を取り入れてはどうか。有田町が推進している STEAM 教育がある。そもそも STEAM 教育自体の原点は工業高校ではないかと思う。有田町には小・中・高校・大学が1つの町にあり、特異な町だと思うので、連携して STEAM 教育の先進的な取組ができるのではないかと。

②「光れ」グループ

有田愛の醸成と卒業後に向けた支援ということで、意見がたくさん出た。有田町長になって考える機会をつくるという意見。町議会で子ども議会をつくって、生徒に質疑の機会をつくる。町議さんも含めて高校生の意見を知ってもらう、それを後押しするために、地域と語る会みたいな、地域の人たちがどんなことを考えているのかをもっと聞く機会を作る。それから、まちづくりに参画してもらったり、街を自分の足で歩いて、自分の目で見ておもしろいと思ったり、難しいなと思ったり、困ったなと思ったことを、自分の目で見て発見していき、有田の人と出会う。街歩きだけではなくて、地域行事にも参加をしてもらう。有田ならではの素晴らしいポイントなどをたくさん拾える機会を作る。有田町には人間国宝みたいな方もいらっしゃるの、本物の芸術に触れる機会をたくさん作って感性を磨いていく。町の外に出て行って吸収したことを、議会の中で出してもらうような、そういった有田愛を醸成するような仕組みを作ったらどうかという意見が出た。

もう一つは有工ならではの卒業後に向けた支援の仕方があるのではないかという意見。社会で必要なコミュニケーション能力もあるが、今の時代はブログや SNS が必要不可欠になっている。有工を卒業する人はクリエイターみたいな人も多いと思うので、高校時代からブログで発信などがやれるぐらいのスキルが必要なのではないかと思う。さらにもっと今の時代はメタバースとか NFT とか新しいものがある、今実際にやっておられる方がこのあたりの導入に苦戦されているという話も聞く。このあたりを大学なども協働しながら高校生のうちから学んでいく機会を作ってみてはどうかという話も出た。あとはクリエイティブなことと言うと、学校でものづくりをして、なかなか販売する機会が作れていないと思うので、作ったものを販売するような機会を町の中で、NPO などが支援しながら場所やお金を支援しながら、実際に売ってみる機会も作れば良いと感じた。

③「創り」グループ

有工の唯一無二って、現状として何があるかというところから話し合った。誰にでも挨拶ができること、有工生の笑顔がよかったという話もある。先生と生徒の距離感が近いのが有工らしさではないかと思う。同じ学校に30年近くも勤めるといような話は他の学校ではあまり聞いたことがなく、そういった先生たちがこのような校風を作っているのかなとも思う。有工はいい雰囲気なので、周りに伝えていきたい。魅力のある学校なので、大人からも高校生がどのように思っているのかを知りたいという意見が出たので、この会で出た質問を生徒たちに Q & A という形で聞いてみて、「君たちこんなに大人から興味を持たれているんだよ」ということを、必要必然を使いながらコミュニティを近づけていければおもしろいのではないかと思った。課題として、どうやって取り組むかという話が出たときに、有工には電気科や機械科もあり、セラミックと組み合わせるのもいいのではないか。私はスマートセラミックということを3年前くらいからやっていて、焼き物に IT の電子デバイスを取り組んだ商品づくりをプロジェクトでやっているので、有工の先生たちとも一体となって商品化に向けて取り組んでみたい。セラミック科の先生も、技術ばかりを習得するだけでは駄目だと感じておられるようで、社会に出たときにコミュニケーション能力をつけるために、小学校との陶芸交流などをやっていると話していた。人に教える喜び、自分の技術を通して、それによって自然にコミュニケーション能力も養われていくのではないか。有工のセラミック科の生徒も誇りやプライドをもって社会に出て行ってほしい。そのためにはいろいろな体験をどんどんやれるということ、委員の皆さんと考えて一緒に作っていきけるのではないかという意見が出た。失敗してもいいからやってみる、フィールドワークとして失敗は許されないではなく、リカバリーできるということを知ってほしい。トライ&エラーも見てもらえたら、作る喜びも出るのではないかと思う。もっと有田を知ってほしい。有田は何もないという大人に対して、生徒として学びながら大人に町民の雰囲気も変えてほしい。町外に出たとしても有田に帰れる場所をつくってほしい、大人の人たちとの距離を縮めてほしいと感じた。

11 諸連絡

- ・ 次回は7月中旬から下旬に開催を予定している。日程調整伺いの提出を依頼。
- ・ 本日 18 時 50 分頃から RKB 毎日放送「タダイマ！」第4部「カラフルハイスクール」のコーナーで、有田工業高校の動画が放送されることを紹介。
- ・ 明日 6 月 22 日、九州陶磁文化館で、「海を渡った古伊万里〜ルースドルフ城の悲劇」シンポジウムが開催。本校セラミック科3年生も参加し、来日された城主に質問をする予定であることを報告。
- ・ 学校魅力化コーディネーター募集の案内。(資料 P.20)

12 閉会

※ 閉会后、集合写真を撮影。

※ 予定していた学校施設見学（本校の特色ある各学科の実習棟など）については、会議が長引いたため、本日は中止とした。

【委員】（敬称略：五十音順）

- 岩井 章（有田観光協会 専務理事）
- 岩楯愛久美（本校デザイン科卒業生）
- 小嶋 貴之（有田町立有田中学校 校長）
- 佐々木元康（特定非営利活動法人 灯す屋 代表理事）
- 竹田 英司（長崎県立大学 地域創造学部実践経済学科 准教授）
- 土井 輝（有田町まちづくり課 副課長）
- 徳永 隆信（徳永陶磁器株式会社（幸楽窯）代表取締役、有田ロータリークラブ会員）
- 中野 星次（佐賀新聞社メディア局次長兼コンテンツ部長）
- 中村 隆敏（佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授）
- 西山美穂子（キッキングランマ 代表）
- 原田 好和（（有）アトラス 代表取締役、同窓会副会長）
- 深川 祐次（株式会社香蘭社 代表取締役社長、有田町商工会議所 会頭）
- 安元 孝史（全日制 PTA 会長）
- 山崎 哲也（佐賀県立有田工業高等学校 校長）

【事務局】

- 馬場 光弘（全日制 教頭）
- 吉田 芳克（定時制 教頭）
- 橋本 剛（事務長）
- 中西 美香（主幹教諭、SCS 担当 主任）
- 原 慎一（教務主任（全日制））
- 野田 和弘（教務主任（定時制））
- 馬場 美帆（事務担当）
- 池上千代香（進路指導主事（全日制））
- 澤山 大亮（セラミック科主任（全日制））
- 森永 昌樹（デザイン科主任（全日制））
- 吉武 吉隆（機械科主任（全日制））
- 山田 成仙（電気科主任（全日制））
- 吉永 伸裕（地域みらい留学担当）

※ 学校運営協議会については、全日制・定時制合同での設置とする。

※ SAGA コラボレーション・スクール (SCS) 重点校指定については、全日制が対象となっているため、全日制を対象として学校魅力強化委員会を設置する。

配布資料 目次

【会議資料】

○会次第	・・・ P.1
○学校運営協議会委員および本校事務局教職員の紹介	・・・ P.2
○学校運営協議会の設置について	・・・ P.3～5
○学校運営の基本方針（長期経営計画・学校運営計画）（全日制）	・・・ P.6～7
令和4年度 学校評価計画（全日制）	・・・ P.8
○スクールミッション・スクールポリシー案（全日制）【暫定版】	・・・ P.9
○学校運営の基本方針（長期経営計画・学校運営計画）（定時制）	・・・ P.10～11
令和4年度 学校評価計画（定時制）	・・・ P.12
○令和4年度学校運営協議会（学校魅力強化委員会）年間計画案	・・・ P.13
○SAGA コラボレーション・スクール事業の説明	・・・ P.14
○令和4年度版佐賀県立有田工業高等学校運営協議会（学校魅力強化委員会） の仕組みを生かした連携・協働のイメージ【概要】	・・・ P.15
○令和4年度年間行事計画（全日制）	・・・ P.16～17
○令和4年度年間行事計画（定時制）	・・・ P.18～19
○学校魅力化コーディネーター募集の案内	・・・ P.20

【参考資料】

○ARIKO コミュニティ・スクール通信 第1号	・・・ P.①～②
○佐賀県立有田工業高等学校運営協議会規約	・・・ P.③～④
○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）第47条の5	・・・ P.⑤
○佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則	・・・ P.⑥～⑧
○佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱	・・・ P.⑨～⑩
○学校魅力強化委員会設置要綱	・・・ P.⑪